

## — 設備保全の情報共有・交流会 —

# 東北地域保全研鑽会（2024年度第1回）

<https://info-jipm.jp/f/jipm-study-group/>

における活動レポート



- **設備保全は、“壊れた部品を交換するだけ”ではありません！  
設備をいつでもロスなく稼働させることが本来の役割。**
- **でも、自社だけでは行き詰ってしまうことも。。。  
困りごとの解決や、他社の取組み事例を知りたい方は、  
ぜひ、本研究会で一緒に解決してみませんか！！**

トヨタ自動車東日本 宮城大和工場での見学時(2024年第1回)

## 東北地域保全研鑽会ってなに？

「設備保全」の業務は、「設備をいつでもロスなく稼働させる」ことが本来の役割。  
その実現には、故障をはじめとしたロスの原因を見つけて、未然に対策を行なうことが重要です。  
しかしながら、自社で得た知見だけでは、なかなか対策が難しい場合も。。。。

「東北地域保全研鑽会」では、2016年より、人材育成や人材確保、  
設備診断技術などをテーマにして、ディスカッションや、工場の見学を実施しながら  
「オール東北」での交流の場となることを目指しております。

日頃の困りごとの解決や、他社の取組み事例を知りたい方は、  
この機会にぜひご参加いただき、参考となる情報を自社で活かしてみませんか？  
(当会会員企業の方は参加無料ですので、お気軽にご参加ください)



### 研究会概要

活動内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 設備管理・保全に関する情報交換ならびに相互研鑽</li><li>・ 設備管理、保全、モノづくり全般について先進企業の取組み紹介</li><li>・ メンバー企業の工場見学 など</li></ul>
参加対象	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 設備保全、設備管理全般の管理者およびご担当の方</li><li>・ 人材教育の企画、実施のご担当の方</li></ul>
開催頻度	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 2～3回/年を予定</li></ul>
年会費	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 公益社団法人日本プラントメンテナンス協会 会員価格：無料</li><li>・ 一般価格（上記以外）：¥33,000-/名</li></ul>



# 東北地域保全研鑽会ってなに？

## 研究会活動の紹介（2024年度第1回活動レポート）

テ ー マ	2024年度第1回 東北地域保全研鑽会 ～トヨタ自動車東日本における設備管理の事例見学～
開 催 日	2024年7月30日（火）
開 催 場 所	トヨタ自動車東日本株式会社 宮城大衡工場・宮城大和工場
プ ロ グ ラ ム	<ul style="list-style-type: none"><li>● トヨタ東日本学園 概要・施設紹介</li><li>● トヨタ自動車東日本 宮城大衡工場 組立工程・ボデー工程紹介</li><li>● トヨタ自動車東日本 宮城大和工場 三本柱活動・自主保全活動<ul style="list-style-type: none"><li>・定量保全（兆候管理・状態監視）活動紹介</li></ul></li></ul>
参 加 者	東北地域保全研鑽会 会員：32名（10社）



### 開 催 報 告

- 今回の研鑽会では、「現場・現物・現実と  
いった三現主義のもと、そこから得る“気づき”  
の大切さを実感」をテーマに、トヨタ自動車東日本さん（以下、TMEJ）のご協力  
いただき見学させていただいた。
- まず、ご紹介いただいたのは、「トヨタ東日本学園」。認定職業訓練校であり、TMEJ  
だけでなく、地域のモノづくり人材の育成を担う。機械要素やロボット制御などの実習設備  
を備え、モノづくり現場の中核人材を育成している。TMEJの生徒さんにおいては、  
1年間の規律の厳しい生活や教育を経て、指導員的な立場を目指すことになる。とくに、  
TMEJの保全部署へ配属するためには、学園を卒業する必要があることが特色だ。
- 続いて、「宮城大衡工場」の組立工程とボデー工程を視察した。車両工場だけあって、  
見応えのある工程であるが、各所に作業のやり易さへの工夫、ミス防止策を施しながら安定稼働を目指すラインとなっていた。アナログとデジタルの良い点を融合しながら、「自動化」がされている。からくりを用いた改善活動にも注目だ。
- 「宮城大和工場」では、「モノづくり現場」での要点を整理した「職場運営の3本柱」活動の実例をご紹介いただく。1）標準作業の徹底と改訂（人）、2）加工点マネジメント（製品）、3）自主保全（設備）を柱とした活動である。自主保全の事例として、「自主保全ボード」で管理し、設備課と保全課が連携しながらエフ付け・取りの活動を展開していた。
- そして、専門保全の3本柱活動「故障ゼロマネジメント」をご紹介いただく。1）予防、2）予知、3）処置の3つを柱にして、昼休み内では対応可能な定量保全の改善（予防）や、状態監視（予知）の事例、早く正しく修復するための育成（処置）について説明。さまざまな部署と一体となって活動を推進していた。
- 今回は、2工場と教育施設の見学であり、さまざまな点について“気づき”を得られる会合となった。見学中の説明者と参加者との質疑応答も活発に展開されていた。

（記：JIPM奥富）



東北地域保全研鑽会にご興味ある方は、お気軽にお問合せください  
TEL：0120-451-466（または03-6865-6081） E-mail：FUKYU@jipm.or.jp